

さまざまなサティスフェイク

平井慎二

サティスフェイクとは、Satisfaction (満足) と Fake (偽物) からなる造語であり、日本語に直すと、偽満足 (にせまんぞく) のような造語になるであろう。サティスフェイクは、その使用時には満足し、その反復により欲求が生じなくなることを狙う食品や器具等である。

1) サティスフェイクタブレット

サティスフェイクの言葉を初めて使ったのは、商品にもなっている錠剤型食品に対してであった。

患者が薬理作用のない錠剤型の食品であることを知りながら、不眠や不安焦燥に対する頓用薬として摂取する。錠剤型食品を見て、準備して、摂取する行動における刺激と反応は、薬理作用のある本物の頓用薬を服用する際と全く同じである。そして、摂取するとよく眠れたり、焦燥がとれたりする。つまり、かなりの程度に満足する。

しかし、錠剤型食品には薬理作用はなく、生理的報酬は生じない。従って、錠剤型食品からの刺激を受けて、それを見て、準備して、摂取することにより、行動を司る反射連鎖は抑制を受ける。その反復により、最終的には反射連鎖は作動しなくなり、頓用薬に対する欲求は消える。

錠剤型食品は単純な睡眠薬導入剤や抗不安薬の使用障害に有用である。また、覚醒剤やアルコールの使用障害に罹患した者が睡眠薬導入剤や抗不安薬の使用障害に併存障害として罹患していることがあり、その場合にも、主に覚醒剤あるいはアルコールの使用障害に対して条件反射制御法を進めながら、通常の頓用薬と同様の方法で錠剤型食品をして用い、特別な努力を必要とせず睡眠導入剤や抗不安薬の使用障害をも治療できる。

2) さまざまなサティスフェイク

また、その開発前までにすでにさまざまな器具や設定を使って、治療の標的の行動を行い、その行動を司る反射連鎖を刺激し、反応を生じさせるが、生理的報酬の発生には至らないという現象を生じさせ、標的の行動を司る反射連鎖の作動性を抑制していた。

覚醒剤静脈注射の疑似にはカルキ抜きを砕いた偽覚醒剤、本物の注射筒、やわらかい樹脂の注射針、偽血液の逆流を視認できるキットを用いる。また、万引きの疑似は、集団精神療法室にテーブルと棚に内容を抜いた商品の包装を置いて疑似店舗を作り、患者はそこで疑似万引きをする。痴漢の疑似は、女性の性状のマネキンに対して、近づき、触る。パチンコやスロットは、電源も入るようにして、派手な音が出て、さまざまな色の光りも点灯するが、換金はできない。

ストーリー行為や PTSD、詐欺などに対しては、紙芝居のように描画の連続を作り、それを順序よくみることで、最終部分ではなく、全体の流れから不連続に取りあげた複数の部分の反射を再現させ、終末には生理的報酬が生じないようにして、疑似としている。

万引きの疑似として前出の方法とは異なるものとして次も行う。A3の紙に店舗の

図、対応する大きさの商品の絵、買い物カートに見たてた小さな箱を用いて、空間と行動を縮小して万引きを再現する。

3) サティスフェイクを用いる重要性

疑似を食品や器具を用いて継続する重要性の1つは刺激としての活性を失わないことである。

刺激となるサティスフェイクは現実に近いことがよいが、現実の再現がやや乏しくても、あるいは、再現に大幅な縮小があっても、サティスフェイクに一定の類似性があり、また、生じさせる反射が標的行動の起点から終点に向かう順序になっていれば、効果が生じる。